

【天国への手紙

2022年2月20日放送分】

寅年の春に想う

ラジオネーム△ミルクとパンのみみ

昨年末、寅年の年賀状を作っていた頃からあなたのことを想っています。トラ、ギョに行ってしまったのっ。

トラ模様のあなたは、雨にぬれて小さく震えながら、うちの軒下の奥の方にいた。私はあなたを抱きしめたくて、精いっぱい手を伸ばしたけど、あなたは後ずさりしていくばかり。今思えば、その場を走り去る力もなかったんだね。湿っぽい土のにおいと共に、今でもあなたのおびえた顔が忘れられない。母を呼んできたけど、余計におびえさせちゃったね。それでも気になって、せめてもと、牛乳を入れたお椀を軒下の手前に置いて家に入った。でも気になって気になって眠れなかった。

翌朝、軒下をのぞいたら、あなたの姿はなかった。カラになったお椀にあなたがいたという証だった。もしかしたら、また来てくれるかもしれない、という淡い希望をこめて、カラになったお椀に牛乳を入れておくと、次の朝もカラになっていた。トラ模様だから「トラ」と名付けて、毎日牛乳を入れ続けていると、数日後、トラが牛乳を飲ん

でいる所に出くわした！　わっと後ずりしたトラ。でも、あの雨の日に見た時と違って、「じゃー」と鳴いて、立ち去らなかつた。うれしかった。母から、「子猫は怖がりだから、無理に近づいたり、触ったりしたらダメよ」と言われていた私は、言われた通り、1m位離れて見守るだけ。そうしたら、トラの方から私の足元にすりすりしてきてくれた。

トラはうちの子になった。子猫から、大人のオス猫になり、堂々たる風格に。春の恋の季節には、傷だらけで帰ってへるおっぴんになった。おっとりした性格だったのに、強い猫に挑んでいったんだね。

私はトラが可愛そいで、外に出ないように見張っていた。でもドアが開いたスキにトラは外へ！　・・・あなたは帰ってこなかった。

あれから、20数年。天国に行ったとは思いたくはない。でも、あなたにちゃんと伝えたい。「トラ、ラブ、いめんね。今でもあなたは私の唯一の猫です。ありがとう。」。

リクエスト曲

〈 春にして君を想う / 小沢健二 〉